

試験研究成果普及情報

部門	野菜	対象	普及
課題名：ウイルスフリージネンジョ「ちばとろ」のむかご収穫個数の増加技術			
〔要約〕むかごの着生数が既存系統に比べ少ないジネンジョ品種「ちばとろ」において、種苗用として最適な大きさである直径 7.3～12mm のむかごの着生個数を増加させるには、8月上旬に緩行性肥料（窒素成分で 5kg/10a）を追肥する。			
キーワード	ジネンジョ、ちばとろ、むかご、追肥、種苗		
実施機関名	主 査 農林総合研究センター 水稻・畑地園芸研究所 畑地利用研究室 協力機関 千葉農業事務所、長生農業事務所、千葉県自然薯生産連絡協議会		
実施期間	2013年度～2015年度		

〔目的及び背景〕

千葉県は、平成 21 年にジネンジョ品種「ちばとろ」を品種登録した。この品種は芋の形状が太くて短く、既存の系統と異なるニュータイプのジネンジョとして普及が期待され、許諾先の県自然薯生産連絡協議会においてウイルスフリー株の種苗が生産されている。ジネンジョは、1 年目に網室内でむかごを採種し、2 年目にむかごを網室内に播種して 30g 程度の小芋（一本芋）を育成し、3 年目は一本芋を露地ほ場で栽培して収穫芋を販売する。むかごは、蔓が繁茂した株や下降した蔓に大きなものが多数着生するが、「ちばとろ」は従来から栽培されている系統に比べて種苗として最適な大きさである直径 7.3mm～12mm のむかごの着生個数が少ないため、栽培面積の拡大を進めるうえで妨げとなっている。

そこで、「ちばとろ」のむかご着生数を増加させ、必要な大きさのむかごを得るための栽培管理技術を確立する。

〔成果内容〕

- 1 茎葉の生育旺盛初期にあたる 8 月上旬に追肥を行うことで、むかご着生個数が増加する。また、追肥には、緩行性肥料である CDU 化成が適する（図 1）。
- 2 通常の蔓の生育量を確保した場合、8 月上旬に CDU 化成を用いて窒素成分で 5 kg/10a 追肥することにより、7.3mm～12mm のむかご着生個数は、無追肥区に比べ 5 割～8 割（個数にして約 100 個/m²）の増加が見込める（表 1）。

〔留意事項〕

ウイルスフリー化の効果を持続するために、網室内への入出時にアブラムシを入れない工夫や定期的な薬剤散布等の管理を行う。

[普及対象地域]

県内全域のジネンジョ栽培者

[行政上の措置]

[普及状況]

[成果の概要]

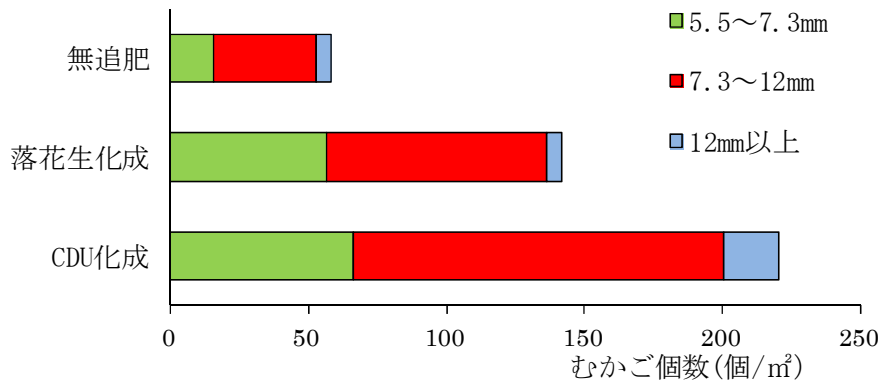


図1 追肥の種類別むかご収穫個数(平成25年度)

注1) 試験場所：長生村(表層腐植質黒ボク土客土)

2) 耕種概要

植付：5/21、株間25cm×畦間1.5m、1本平均37gの一本芋、1区10株1条

基肥：CDU化成33kg/10a(窒素成分5kg/10a)

追肥：8/1、CDU化成33kg/10a、落花生成100kg/10a(窒素成分で各5kg/10a)

むかご採種：10月21日~11月11日の間に3回

表1 8月上旬の追肥の有無がむかごの収穫個数に及ぼす影響

調査 ほ場	蔓の 生育 量	試験区	むかごの大きさ別収穫個数(個/m ²)			合計	合計に対する 7.3~12mmの 個数割合(%)	無追肥区に対する 7.3~12mmの 個数割合(%)
			5.5~7.3mm	7.3~12mm	12mm以上			
A	少	追肥	110	102	1	212	48	109
		無追肥	101	94	0	195	48	100
B	中	追肥	168	329	51	548	60	152
		無追肥	129	216	35	380	57	100
C	中	追肥	106	434	29	569	76	177
		無追肥	68	246	44	357	69	100

注1) A及びCほ場は平成27年度結果、Bほ場は平成26~27年度結果の平均値

2) 耕種概要(土質、植付日、株間×条間、基肥、むかご収穫調査日)

Aほ場：表層腐植質黒ボク土、5/2、20cm×1m(2条植え)、落花生成(5-15-20)133kg/10a、11/19

Bほ場：表層腐植質黒ボク土、5/23、20cm×1.8m、CDU化成(15-15-15)33kg/10a、10/7~11/18

Cほ場：淡色黒ボク土(造成により表層腐植質黒ボク土の下層土露出圃場)、5/14、20cm×1.5m、ネギ化成(12-12-12)100~120kg/10a、11/12

追肥：8/1~4施用、CDU化成(15-15-15)33kg/10a(窒素成分で5kg/10a)

3) 蔓の生育量は観察による

[発表及び関連文献]

[その他]